

12月のほけんだより



冬に流行しやすい感染症 感染性胃腸炎

ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスが原因で、吐き気や嘔吐、下痢、腹痛などの症状が見られ、発熱する場合もあります。急に食欲が落ちたときは要注意！
下痢や嘔吐がある場合は早めに病院で診てもらい、脱水症状にならないよう、こまめな水分補給を心がけましょう。また、吐物や便にはウイルスが含まれているので適切な処理をし、片付け後は、手洗い・うがいをきちんと行ってください。
*人にうつりやすい感染症です。また、コロナウイルスでも胃腸症状が出る事が報告されています。症状が治まり、普段の食事が食べられるようになってから登園しましょう。登園の際は「登園届」の提出をお願いします。

| | ひよこ組 | あひる組 | ぺんぎん組 | ねこ組 | とら組 | らいおん組 |
|---------------------------------|------|------|-------|-----|-----|-------|
| 受診者数 | 10名 | 20名 | 24名 | 25名 | 25名 | 25名 |
| 虫歯あり | 0名 | 1名 | 1名 | 6名 | 3名 | 6名 |
| 歯石あり | 0名 | 0名 | 2名 | 2名 | 1名 | 3名 |
| その他(形成不全、癒着歯、反対咬合、指しゃぶりによる影響など) | 1名 | 3名 | 2名 | 0名 | 1名 | 1名 |

10月に全園児歯科健診が行われました。一般的に3歳児頃から虫歯になる子が増えてくると言われています。歯が生え始めてきたら、歯のケアをすることに慣れて、習慣付けていくことが大切です。歯みがきを嫌がる場合は、歯みがきが楽しい時間になるように、歌などで雰囲気作りから♪子ども用歯磨き粉や、歯ブラシ選びから一緒に選んでみるなど、ワクワクするようなアイテムを取り入れて色々試してみてください。所見のあった子は、早めに歯科受診をしておきましょう。



インフルエンザ出席停止期間の基準

| 例 | 発症後5日間(出席停止期間) | | | | | 発症後5日を経過 | | | |
|---------------|----------------|-----|-----|-----|-----|----------|-----|-----|-----|
| | 0日目 | 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 | 6日目 | 7日目 | 8日目 |
| 発症後1日目に解熱した場合 | 発熱 | 解熱 | OK | OK | OK | OK | OK | OK | OK |
| 発症後2日目に解熱した場合 | 発熱 | 発熱 | 解熱 | OK | OK | OK | OK | OK | OK |
| 発症後3日目に解熱した場合 | 発熱 | 発熱 | 発熱 | 解熱 | OK | OK | OK | OK | OK |
| 発症後4日目に解熱した場合 | 発熱 | 発熱 | 発熱 | 発熱 | 解熱 | OK | OK | OK | OK |
| 発症後5日目に解熱した場合 | 発熱 | 発熱 | 発熱 | 発熱 | 発熱 | 解熱 | OK | OK | OK |

感染のリスクを下げながら会食を楽しむ工夫

新型コロナウイルス感染症は、屋外で歩く際や、十分に換気がされている公共交通機関での感染は限定的であると考えられていますが、「クラスター」と呼ばれる集団感染が、感染を拡大させることが分かっています。これまでのクラスター事例の分析から、感染リスクを高める「5つの場面」が分かってきました。これらの場面は、感染リスクを下げる取り組みが特に必要な場面です。①飲酒を伴う懇談会など②大人数や長時間におよぶ飲食③マスクなしでの会話④狭い空間での共同生活⑤居場所の切り替わり。家族や親せきなど、一緒に過ごす事などが増える年末年始ですが、新型コロナウイルス感染症は会食や家族内感染が多いと言われています。以下の事に注意して、楽しく健康に過ごしましょう。

- ・(保護者が)飲酒をするのであれば、①少人数・短時間で、②なるべく普段一緒にいる人と。
- ③(保護者は)深酒・はしご酒などはひかえ、適度な酒量で。
 - ・箸やコップは使い回さず、一人ひとり。
 - ・座の配置は斜め向かいに。(正面や真横はなるべく避ける)(食事の際に、正面や真横に座った場合には感染したが、斜め向かいに座った場合には感染しなかった報告事例あり。)
 - ・会話する時はなるべくマスク着用。(フェイスシールド・マウスシールドはマスクに比べ効果が弱いことに留意が必要)
 - ・換気が適切になされているなどの工夫をしている、ガイドラインを遵守したお店。
 - ・体調が悪い人は参加しない。

新型コロナウイルス感染症対策分科会より引用

気を付けよう や け ど 事故

炊飯器の蒸気に触れる、電気ケトルを倒して熱湯を浴びる、使用中の熱いグリル扉に触れる、など、特に0歳～2歳の乳幼児のつかまり立ちや、好奇心、行動範囲の広がりに伴いやけどの事故が多く報告されています。

1. お茶、味噌汁、カップ麺などでのやけど

- a. 高温の飲み物や汁物を扱う時は、子どもの手が届かないよう注意しましょう。



2. 電気ケトル、ポット、炊飯器でのやけど

- a. 電気ケトルやポットはお湯が出ないように必ずロックし、子どもの手の届かない場所に置きましょう。

3. 暖房器具や加湿器でのやけど

- a. 床に置くタイプの暖房器具は、子どもの手が届かないように安全柵などで囲みましょう。



4. 調理器具やアイロンでのやけど

- a. 調理器具やアイロンは使用後も高温であることがあるので、テーブルの端に置いたり、アイロンのコードが子供の手に届かないようにしましょう。

